

西成区「あいりん地域のまちづくり」 第21回労働施設検討会議 議事概要

1 日 時 平成29年8月22日（火） 午後7時00分～午後9時15分

2 場 所 西成区役所 4階 4-8会議室

3 出席者

（有識者4名）

福原大阪市立大学大学院経済学研究科教授

寺川近畿大学建築学部建築学科准教授

ありむら釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長

織田釜ヶ崎のまち再生フォーラム代表理事

（行政機関15名）

大阪労働局 大谷会計課長補佐、宮田職業対策課長補佐、ほか2名

大阪府商工労働部雇用推進室労政課 地村参事、中村課長補佐、ほか5名

西成区役所事業調整課 室田課長代理、狩谷係長、ほか2名

（地域メンバー8名）

茂山萩之茶屋第9町会長

松繁釜ヶ崎資料センター

西口大阪国際ゲストハウス地域創出委員会

山田NPO法人釜ヶ崎支援機構理事長

佐藤公益財団法人西成労働福祉センター業務執行理事

荘保わが町にしなり子育てネット代表

吉岡釜ヶ崎キリスト教協友会共同代表

稲垣釜ヶ崎地域合同労働組合執行委員長

4 議 題

・本移転施設の機能について

「多様な求職者（若者、女性）ニーズへの対応」の検討
講演

「多様な求職者のニーズに対応した職業支援のあり方について」
～ A¹ワーク創造館の取り組みから～

・意見交換

・報告事項

仮移転施設に関する情報について

労働関係調査について

あいりん地域まちづくり会議第2回報告会について

その他

5 議事内容

（1）議事

- 委員がお越しになりましたら始めさせていただきますのでしばらくお待ち下さい。
- 委員が入らないのであれば、わがままに付き合わないで閉めたらいいのでは。子供ではないんだから入りたかったら入ってくるでしょう。
- 委員の後ろに何人かついて上がってきている。
- 電気ぐらい点けたって。何で暗がりの中で。
- あなたのために遅れている。
- 始めてくださいと言っている。始めてよ。
- 始めたらいんじゃないの。
- 始めてよ。僕のせいにせんといてよ。僕は進めてくださいと言っている。
- そうですか。
- すみません、お待たせしました。
- 定刻を少し過ぎましたが、ただ今より第21回労働施設検討会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中夜間にお集まりいただきまことにありがとうございます。本日も、どうぞよろしく願いいたします。
- 本日もお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。前回7月は、第2回まちづくり会議報告会としてお時間を振り替えさせていただきましたこととお詫び申し上げます。本日第21回労働施設検討会議を開催させていただきました。会議の傍聴等に関しまして、色々なご要望もあり、本日も外が騒がしくなっておりますが、本日はA¹ワーク創造館からお二人の先生方にお越しいただき、貴重なお話を聞かせていただきたく存じますので皆様方のご協力を何卒よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、ご挨拶に代えさせていただきます。
- こっちの方はどなたですか。
- 西成労働福祉センターです。
- この人らは傍聴ですか。
- いえ、私も大阪府の事務局です。分からないことがありますお呼びしました。
- センターの職員が事務局ですか。今日だけですか。
- 事務局としてお願いしました。今後も必要に応じて来ていただくことにしました。
- 始まりが遅くなりましたが、本日は2人の講師に来ていただいており、お話をじっくり聞くため、振り返りの時間は手短にし、中身についての詳しい振り返りは次回に回したいと思います。前回の議論を振り返ると、本移転施設の機能の中で西成労働福祉センター及び職安が持っている機能を維持し、かつ充実していくという中で、さらに多様な求職者、特に若者、女性そして中高年の課題を抱えている方のニーズに応じていく仕組みを作って行こうという議論をしました。それに当たっては、行政にも頑張ってくださいますが、併せて民間で先進的に取り組んでいる団体の取組みにしっかり耳を傾け、学んでいきたいということで会議を締めくくったと思います。今回はその一環の第1回ということで、A¹ワーク創造館の高見館長そして西岡支援室長さんにお越しいただいたということです。前回の振り返りについては次回にしっかりやるということでご理解いただき、A¹ワークのお二人からご講演をお願いしたいと思います。
- 外の電気点けたってよ。
- よそのことを心配するな、心配するなら外に出てやれ。会議が進まない。
- 何を言ってるの。よそのことと違う。進まないようにしてるのはあんたらや。電気点けたってよ。
- 委員、議事に関係のないご発言はお控え下さい。
- 言っときます。安心安全やないわ。電気も点けんと暗闇で。何をされるんですか。趣旨

は言うてもらいましたか。

○ 先ほど申しあげました。

→ そうですか。

○ 本日お配りしている資料のうち、「A¹ワーク創造館の活動紹介」から順にご講演いただきますのでよろしくお願いいたします。

→ まちづくりと何が関係あるんですか。ほぼ関係ないのと違うの。こんなことで時間つぶしとったらあかんのちゃう。労働部会とほぼ関係ないの違うの。

○ 申し訳ございません。始めさせていただきます。

<A¹ワークからご講演>

「A¹ワーク創造館の活動紹介」について（高見館長）

- ・経過
- ・設立の理念
- ・自主事業であるレディメイド講座やオーダーメイド講座の他、公共職業訓練、就労支援事業など同団体が実施する事業内容等についてのご講演

→ 何分ぐらい続くのですか、だいたい。

○ 先ほども申しあげたとおり、25分です。

→ トイレ行かせてくれ。

○ 会議前に時間あったのではありませんか。もし出られてこの騒動の中で戻ってこれない場合はご了承ください。

→ どういう意味ですか。

○ 時間あったのになぜ事前に行かれなかったのですか。今出られたら、この喧騒の中ですから入れない場合もあるでしょうということを申しあげています。

→ いつ行きたくなるか分からんやろ。何を言ってるねん。因縁つけるな。何を言ってるんだ。

→ 行くのはいいが、表がワーワー言っても会議は続けるといっている。

○ ありがとうございます。もしご質問等あれば出していただければと思います。よろしいですか。

<A¹ワークからご講演>

「都市・自治体に問われる就労支援とは」について（西岡就労支援室長）

- ・就労支援の背景
- ・就労支援とは何か
- ・自治体の就労支援や就労支援をめぐる動き等についてご講演

→ みんなさっき帰ったら電気点けたよ。やっぱり関係あるんちゃうの。25分で終わるんですか。

○ ありがとうございます。資料はまだまだ情報が載っているが、時間の関係上、省略して報告いただいた。このあいりん地域、労働福祉センター、その他既存施設の拡充プラス民間との連携で新しい流れをどう作っていくのか。今後しっかり考えていきたいと思う。それを踏まえて、今日はお二人にご報告いただきましたから、ご報告の内容について、みなさまからご質問・ご意見いただきたいと思う。

→ あなた方三人はあいりん職安が仕事の紹介業務をしていないのはご存知なんですか。セ

センターの3階にあるあいりん労働公共職業安定所です。

○ 今日のお二人の報告について、質問をいただきたいのだが。

→ だからそれについて、ご存知なのかどうなのかをちょっと聞いているだけだ。

○ 聞いてどうされるのですか。

→ 釜ヶ崎の状況が分からんのなら、職安が仕事紹介していないのだから、そんな話聞いたって全然参考にならんとは言わんけど、ご存知なのかと聞いている。

あいりん職安が仕事の紹介業務していないのはご存知なんですか。普通は仕事の紹介をするでしょう職安は。どこでもそうでしょうハローワークは。でもあいりん職安は仕事の紹介をしていない。

→ 正式には今あいりん職安はしようとしているけど求人がないということでございます。

→ それは嘘です。あんたは職安の職員か、責任を持って話ができるのかいな。

→ それで今日の話としては、センターの新しい機能をどうやって作るのかといった参考のために、ご意見をお聞かせ願っていると言うことだが、今問題というか考えているのはセンターの規模をどうするか、どういう機能を付ければいいのか。従来の日雇労働者の技能訓練だけで十分なのか。若者が来てるといったところで数は知れている。こういったプログラムを出して吸引すれば来るだろうが。ここに書かれているのは人口に占める割合として大阪市の大きな数字が出ているが、そんな何十万人規模の話ではなく、今A¹創造館で対応している分では足りないけれども、あとどれくらいの規模のものがあれば自分たちの手に合うようになるのかな。今年度で何人ぐらい教室とかプログラムとか相談とかでやってるの。

○ 利用者という意味では、館では年間7万人くらい。講座を受けに来る人は数千人規模。訓練は先ほどの表の通りそれぞれのコースの数字ですけど。まだまだ全体の大阪市・府で抱えているような人数を対応するには力不足でしょう。今は芦原橋という地域でやっているけど、距離の問題もあるので出張所や支所、サテライトというものも将来的には考えないと全体を網羅するのは難しいだろうと思っています。

→ 一つには相談といっても、相談のシステムを作る、相談に乗るということを行うということでしたか。

○ そうですね。自治体とか若者の団体とかシングルマザー支援をする団体とか共通な悩みとして、出口をどうつなぐのとかと、相談自体はそれぞれ専門なので蓄積もある。その人たちの自立というか、働きに行くのをどうしようかと。

→ 西成労働福祉センターのことをお詳しいか分からないから、酷かもしれないが日雇労働者が多くて、その人たちの安定した職業にというか正規雇用化を図るための職業訓練や、就業機会を増やすための建設業の技能講習なんかをやっているけれども、キャリアが積めないから、資格証を持ってても使い物にならない。センターの方でもいろんな相談事業やろうとしているが、ネットワークを作ればできる、作らなければあかんといった抽象論はごもっともだけど、じゃあどうするねんというところがある。そういうのを若干踏まえて、こんなことが言えるかなということはありませんかね。

○ 一つ言えるのは、私も豊中などで就労の支援をしていますが、企業さんとか働く現場に送るときに、豊中の支援を受けました、西成の支援を受けましたという技能と経験がミックスされると、「じゃあ雇いましょう、受け入れましょう」といった話しになる。ある意味、どこの支援を受けたっていうのがキャリアというか経歴というか、どこの支援を受けて紹介されてきましたというのが大事な働きとなる。

→ ただ、私の経験から言うと雇用創出基金のときに、3ヶ月の短期、大阪市の職員というか嘱託の枠を増やしましたけれど、それはキャリアにならんわと。私大阪市の嘱託3ヶ

月やりましたからと言って、面接行く人が沢山いるが実際キャリアにならない。

- だから大事なのは3ヶ月大阪市職員をしていましたと要するに何かの支援を受けましたというのを、さらに企業さんと繋ぐもう一つの支援がないと完結しない。
どここの訓練・支援を受けられたというのが大事だと思う。例えば障がい者雇用分野で、企業さんがどこを重要視しているかと言うと、当然求人してマッチングするんですが、その障がい者の方がどここの支援事業所を利用されたのですか、どここの支援団体の応援を受けているのですかというのが、実は企業さんにとっては雇うときにすごく大事な要素になっている。なぜなら企業だけでは全部の順調な応援ができないかもしれない。その時にどこと手を繋いで応援できるかってことが見えているかが大事にされる。つまり、雇ったからすぐに一人前とは行かないというのを前提にしながら、順調に働き続けて欲しいというときはそこを見られる。じゃあ支援の側もそんなのをちゃんと作りこんで送り出そうと。あるいは勤めてからでも「あの方こんなことで元気がないんだけど」という話があれば、私たちはすぐに走ります。本人から事情を聞く。職場では上手く聞けなかったとか、職場での評価が気になるとか、家族のこととか。職場で言えないことを通訳していくのも実は就労支援の中の定着支援としての中身。就労支援はそこまで及んでいっている。採用されたら後は二人でやりなさいでは終わらない。そんな仕組みを持ったセンターになるかどうか、広く信頼されるかどうかになりますよね。
- 信頼のところで目標としてはアメリカ型になると思うが、アメリカでは2年間の准学士みみたいな、大学みみたいなのも構想して、コミュニケーション能力なども備えた形で出す。だから信用が付くのだと思うんですよね。今の西成というか、残念ながらA¹さんでもそうかと思うけれど、とにかく成績を上げないといけないというのものもあるし、十分な期間掛けてやるっていうプログラムが日本の中になくて、そこまで行っていない。そういう新しいものをセンターでできるのかっていうものもある。短期の技能講習だけでなく、コミュニケーション能力とか対人関係を上手くこなせるものを備えた上での技能訓練、そのなかで建設業の会社を探して連携して、就労体験して雇ってもらおう仕組みと考えると、長期のものを構想せざるを得ない。そんなものを新しいセンターに作る、勿論建設業だけでなくその他業界向けもあるだろうが、そういう話ができるかだな。その規模として出したところは、2階建ての建物があるけれども、この会議では、じゃあ新しい建物はどのくらいの面積で、どういう構想ができるのか、具体的に何か考えた方が面白いかもしれない。
- 私の認識では講師の方が言われたように本人が就職した先まで付いて行って、そこで本人が言えないことを会社に伝えたり、逆に会社で言えないことを会社から聞いて伝えたりと、そういったところまでフォローするという発想はまだないんですよね。せいぜい建設業ではない、その人に合ったオーダーメイド的な雇用の開発までがせいぜい。それもまだ発想ぐらいまで。事業所訪問とかで働きかけはしているけどそこまで。だから企業まで付いて行って、企業も助かるように、その人が労働力として継続するところまでしようと思えば相当強力な支援機能を付けないといけない。これからは重要な一つになると思いました。
- 今までの就労支援は支援される側、当事者のスモールステップを作っていく積み上げ式で考えていたが、一方でやはり企業側の受け入れ方、あるいは育て方が問われている。よく中小で聞く話で、ハローワークに求人を出しても誰も来ない、来ててもすぐに辞めてしまう。せっかく仕事を教えてもすぐに辞めてしまう。どうしたらいいのだろうと。職人を育てて頼ってきたが、全て70歳オーバーになって視力も落ちるのでどうしても品質が落ちる。今風のデザインの凝った品物ができない。そういう悩みも聞くので、人

材確保して育成する企業サイドのニーズに合うもの、企業支援をいかにするかとセットだと思う。企業側がそれなりに企業の中で必要な人材をどう育てるかとその気に成ってくれば事前の訓練も短くて済むはず。

先ほど委員がおっしゃっていたとおりの期間は重要だと思うが、企業が後を受けてくれるのならその期間も短くできるという発想もある。アメリカが地域の中の労働力確保の委員会で過半数を企業が占めているのは、その辺の事情があるのだろうと思う。そういう必要性を認識しながら、どういうことが必要なのかと、というようなことが問われているのではと思います。

- 企業側が変わってきているところがある。関西地区の中小企業同友会の人たちが直接施設の子どもたちと連携して、子どもたちと社長自ら話しをして、中学生でも高校生でも体験させてくれる。一番大きいのは社長さんが変わったこと。子どもと向き合うときに、この子が仕事ができないとかではなしに、この子がどんなしんどいことを抱えているのかと考え、企業自身が変わって行って、仕事の間を作るのではなくて、要するに人との関わりなんですと言われた。この間全国大会があったが、子どもたちのために32社も来てデモンストレーションをした。それが近畿地方全部の同友会で、同友会の中でも広がっていている。そこと一緒に組んで、声をかけて一緒にやっていったら、すごく大きいことになると思う。
- そうですね。東京の同友会さんが体験とか訓練の段階から人材を受け入れようと、企業と支援団体がNPOを作られました。
- こっちも作っています。そこにきちんと企業が入ってやればいい。
- A事業所があわないならBを紹介しようか、適切などころにどう案内しようかみたいなところ、企業ネットワークを一緒になって育てようというところで動き始めたことは、企業の進歩だと思う。
- 企業同士の中でこの仕事やったら、みたいに社長さんが社長さんに影響される。その仕組みも取り入れられればいい。
- 有識者何人かで議論する中で、大人版のキッズニアみたいなものを、もちろん高校生ぐらいの子も含めて、体験できる場があれば面白いといった話しがあがっている。
- 三人の人にお尋ねしたいけども、ご本人らのプライバシーの侵害との関係はどういう風に位置づけておられます。プライバシーについては深く入り込めないでしょう。アドバイスとプライバシーの侵害は違うからね。
- それはね、本人が話をするんです。
- 何を言っているのか分からへん。
- プライバシーって個人の情報でしょう。
- 貴方に聞いているんじゃないんやけども。
- 要は対象者のプライバシーの問題をどういう風に保障しているかとそういうことでしょうか。
- プライバシーの侵害をしないアドバイスの仕方を心得られているのかなと思って聞いた訳です。
- 基本的に相談支援の現場は信頼関係ですから、信頼関係できないのに情報もらえません。こちらから聞くこともできません。じゃあお聞きした内容を体験する企業さん側にどう伝えるかっていうのは、ご本人と一緒に決めないといけないし、本人さんがどう開示するかという問題。でも、先ほどのがん患者の支援でも言いましたとおり、現場の個々の配慮して欲しい細かい事項っていうのをどう伝えていくのかは、僕らは環境整備。伝えやすい環境を作ったときに、本人さんの具体的な言葉でどう伝えるのか。伝えない限り

配慮できないですよ。その内容をマネージャーや施設長だけが聞くのか、経営者が聞くのか、同僚まで含めて理解するのかっていうのは、その状況に応じて違うと思う。極めてプライバシーに関わる部分っていうのは重要だけれども、配慮をどこまで求めるのかによって、どこまで開示するのかは変わってくる。それを決めるのは本人の決断だし、私の観点から言うと、働く上でオープンにしておくべき内容はやはり言うべきです。働く上で関係ないことは言う必要はない。そこは判断基準だと思います。

→ プライバシーの侵害が一番心配ですけどね。本人ではなくて、あんた方の。どこまで配慮されているかという。

○ まあ、それはどれだけ信頼されているかの問題です。大きな漏洩事件があれば漏洩事件としてどう解決するかでしょう。

→ プライバシーの侵害にならないようなアドバイスはして欲しいな。

○ どんな団体、労組であつても相談が来ないってことは信頼されていないということでしょうから、それと同じです。相談が続いているということは信頼されているということです。

○ はい、ありがとうございます。

→ それは違うと思うけどなあ。

○ あといかがですかね。建設労働に関連した質問もあればと思うし、地域の資源を通しての問題を投げかけていただいても思います。

→ 今日初めてお伺いして、芦原橋って近くにありながらほとんど知らなかったなど。A¹ワーク創造館に入ってこられる方の入口っていうのは、どういう形で入ってこられるんですか。

○ 一番多いのは講座のパンフレット、講座の場合ですけど、パンフレットを各公共施設、図書館とか区役所とかで配布しています。それを見てこられる方が一番多いです。次いでホームページ。後は伝手ですね。私あそこでこんなこと学んで来たよ、といった形で繋がるケース多いですね。特に女性はそういう傾向が強いと思います。訓練はホームページ等でも発表しますけれども、ハローワークさんからの誘導という形になりますね。就労支援に関しては、今のところ自治体の相談窓口からのケースの紹介となります。

○ 直接担当は少ないんですが、実際の現場からこういう支援できませんか、訓練ありませんかという相談と、その調整ですね。あとA¹自身の相談支援としては訓練講座を終わったけれども上手くいっていない人、あるいはいったん就職したが辞めた人も続けて相談に来られます。そういう方の相談はずっと続く。

○ ものすごく具体的な話しになるが、西成の萩サポートからA¹ワークに行ったっていうのはあんまり聞かないから、いないんでしょうね。もっと緊急性の高い人たちが、あるいは就労困難層でもっとディープな人たちなので、どうなんだろう。

○ どこから来ているかっていうのが、把握し難いというのはありますけどね。支援者の方と来られれば別なんです。

○ 来ていただいた議論の一つが、あいりん地域の中にそういう資源が足りない。もっと根を広げて広域的なところでの社会的な資源を活用することで回していけないだろうか。A¹創造館があるやないかということで来ていただいたんですが、どうですか。

○ 一つは先ほどのアスラクトという障害のある人の就職訓練、就労移行のやっている事業所はありますけどね。

○ 大阪市も福祉サイドが進めている就労支援的な内容というものには、もう少し拠点施設というか、企業さんと繋がる機能を発揮できるものっていうのは、大阪市ぐらいの規模になると、施設であるかは別として次のテーマですよ。

- A さんがやっている就労支援はよく分かったが、もし今まで日雇いを続けていて変わりたいとなったら、技能講習受けないといけないですよ。何が合っていると、何がしたいとか、色々相談で進めていって、その間の生活費とかを持ち合わせる方は結構少ないと思いますが、そこを生活保護とつなげるとか、何とか生活の部分を支えるようなシステムはあるんですか。
- 生活保護を受けながら、ここで訓練してステップアップというのが見えれば、当然保護に繋がりますし、無条件に繋がらないといけないとなれば、それは必要なことですから無条件に繋がります。
問題なのは生活保護の受給条件には合わないけれど、経済的に逼迫している人っていうのも結構いる。これは今一番、大阪市の現場では苦労されている。受給できればいいけれど受給には至らない。でも厳しい。そういう人の就労支援は工夫をしないといけない。一方でその間の生活保障的なことをどうするというのは、制度の議論にはなっているが、すぐこうしようという形になっていないのは残念なところですよ。
- 要するにA さん創造館で技能講習なりを受けて再チャレンジする間は、生活に苦労されている方は、それこそ昼の上どころか野宿されている方でも、保護を受けて昼の上に上がってという可能性としてあり得るのですか。
- ホームレス支援の中で経験したのは、とりあえず昼には上がったので、次の支援をして欲しいというのは結構あります。そういう方は当座すぐにお金も欲しいので、企業支援で付き合いのある企業は、私たちの事業の仕方も理解いただいているので、日払いでお願いしたいんだけど、と融通が利いたりするんです。そういうところでアレンジしないと、現金が入りませんので、あるいは保育を頼んでいるがすぐに決まらないから、子どもどうしようというときに、子どもさんを職場に連れて行っていいよというところを複数持っているかというのが大事になります。そうでないとそういったケースに対応できないことになります。やはりそういう企業さんとか働く現場を地域なり一定の中にどれだけ持っているかっていうのが、支援の質とか、どれだけ困難な人に対応できるか決まってくるんですよ。
- 地域の中で企業に繋がるのが一番可能そうなのは労働福祉センターですけど、多くの問題はあるんでしょうが、目指していくべき方向としては、ヒントになるのではないでしょうか。
- 確かに現在アプローチ就労とか色々ありますから、当然今もやっていますが、目指す方向は同じ。ただ、そこまでするかどうかっていうのはなかなか。
- でも本移転に向けて強力な機能を付けていこうというのは、それこそこの委員も応援して下さるでしょうから。職員もいっぱい付けてやるとか。
- 講演資料の中に求職者支援訓練があつて16年は実施しなかったと。これはだいたいどんなもの。提案型と仰っていたが2~3ヶ月のものなのか。
- そうですね。3ヶ月から6ヶ月程度取れます。要は国としたら、この訓練を行うことによって、就職が可能なのかどうかを見たい。つまり雇用の受け皿がありますかというのを見ています。
- それはその人についてか。
- いや、訓練の内容が。それが前提になる。あとは就職の意思があるかどうか。
- 就職率100%の講座です、鉄板です、と言ってお金を貰って事業をやるということか。
- そうですね。国の方も一定の水準で就職率を確保しないと就職率が悪くなる。訓練を実施する枠があり、就職率の高い講座から順に事業者を取っていくので、就職率が低いと

実施できなくなります。そういったことがあるので就職率はできるだけ高い水準をキープしないとイケないということになります。

→ それは制度が悪いな。

○ そうですね。他の事業者さんも定員を集めるのに苦労されている。そういう現実があります。ただ、働きたい人を一定組織していて、こういった分野で働く人を育てようとしてストーリーが通っていて、なおかつ、遅刻とか色々基準はあるが、生活給付金月10万円が出る訓練ですから、そういった意味では使いようは考えられるかなと思います。

→ 昔大阪市の自立支援センターで自立支援の相談会社どこにするねんとなったときに、一番堅いのは人材派遣会社だと。そりゃ就職率100%ですわと。登録させてそこから派遣する。

○ まあそういうことですよ

→ 後はどうなるか知りませんが、訳の分からんやり方してたな。

○ まあ、その現実はまだ今でもありますけどね。

→ もちろん。

○ ありがとうございます。行政の関係の方も沢山お越しですが、何かあればと思いますが、よろしいですか。

→ 先ほど入口のことを質問させていただいたが、今のセンター、釜ヶ崎っていうのは別にホームページで案内している訳でなく、ビラをまいてる訳でもなく、来る人はなんらかで情報を得てここに来れば何とかかなと思って来られる訳で、結果として、それで日雇いでも就ければいいねんけど、少なくとも私が若い人ってことで言えば、ここ十数年見てきたのだと、来ても仕事に就けなかった。あるいはこの仕事はできないな、という割と若い世代に出会ってる。結局彼ら定着しないですよ。仕事も繋がらない。そのことがずっと不安に思っていて、昔からここで日雇仕事やっていた人については、生き残る術というか、たくましさを持っているが、新しく入ってくる人が入ってこれない。町に来るってだけで仕事に結びつかない。その後分からないが、何とかどこかに繋がってればいいなあとと思うんですが。

私はまだ現役の日雇いとして生き残っているが、建設土木の日雇部分とここに来れば何とかかなんやないか、仕事に繋がるんじゃないかと思っている人に応えられる仕組みがここにあった方がいいと、私は諦めずに思っている。

それとデータの話しもあったがA¹創造館だけじゃないんですが、いろんな施策なり、いろんな事業・取組みに繋がっている人は決してすべてではなくて、潜在的に不安定な状態にある人たちがかなりの数いるというのは肌で感じています。そういった人も含めて、どうするんやというところで、私はやはり今後のセンターの役割の中には建設土木の日雇部分のみならず、今の時代に必要とされる仕事との繋がり、今日の説明にもあったが、労働福祉センターもそうだと思うが、労働だけではなく、そこには生活があり、福祉があり、労働福祉センターという名前でもらかだが、労働じゃない生活、いろんなものも含めて関わっていくという部分も含めて、今後必要になってくるとは思う。一方で、それがちゃんとできているかというとなかなかできていない。それは一つの施策や事業ってだけじゃなくて、私はこんなこと言うともた怒られるかも知れないが、このまちの可能性を信じているんで、まちとして引き受けていくってことができないだろうかと、いろんな部分にいろんな人たちが関わりつつサポートしていく、繋がっていくことができないかと。その中心なるというか入口となるのは今後建て替わるセンターの機能に掛かってくる。ここに人を仕事を求めて寄ってこれる、あるいは不安があれば相談に寄ってこれる、求人力というか人を寄せてくる力があれば、まちもちゃんと引き受け

ていくものを用意せなあかん。そういう意味で可能性を秘めていると思うんです。その上で、今後のセンターの建替えの中身の部分ですから、これを例えばAさんみたいなところと連携していく形でするのか、あるいは部分的に、あるいは全体的に、そうすると引越してきちゃうことになるけれど、それは置いておいて、離れたところで連携するのか、それとも建て替わるセンターの中に機能も含めて作っていくのか。それを含めて必要性の話になる。それこそ委員さんの言うような具体的な規模の話も出てくるだろうと思う。今日の話聞いて、可能性としては今後建て替わるセンターの中には、建設土木の日雇いのみならず、新しい機能が絶対必要やと考えています。そんなこと言うたらね、別の委員さんも言うと思ったように、日雇いのことはどうなるんやと言う話し出てくるやろうと思うけどね。

→ 今でも機能はできることやからね、別に新しくなってから、どうするこうするではなくて、やれることでしょ。あいりん職安が仕事の紹介するっていうのは今からでもやれることでしょ。建物が新しくなろうがなるまいが。

→ そういうことではなくて、現在センターなり職安も含めて、今できてるかと言えば、できていないと思っています。

→ せなあかんやん、今。

→ それを新しくやるに当たっては、前を向いて話しをしないとできないと思っているので、理屈でなくて私自身も現役で残っていますから、委員の言うことは私が身をもって感じていますから、このままではあかん。じゃあどうするんだということを、日雇いだけじゃなくて。

→ 今からでもできる。今からでもできる。

→ そこをね、日雇いやったら日雇いの。

→ あいりん職安が仕事紹介するのは今からでもできる。今からでもできる、新しくならなくても。

○ あのね、職業紹介だけではあかんということを、ずっと今話しているの。

→ 職業紹介せなあかんと言うてんねん、あいりん職安が。

→ 日雇いなら日雇いの話だけやなくてね、今例えば仕事を必要としてる、生活に不安を抱えてる、そういう人たちを新しく建て替わるセンターの機能の中でしっかり受け入れることができるのかどうか。機能の中で受け入れることができるのかどうか、あるいはまち全体で受け入れるのかも含めて話せんと、わしがわしがという話にはならない。

→ そういう話しやない。

→ 私の意見です。

→ ああ、あなたのね。

○ ありがとうございます。一言だけ私も喋らせてください。建設関係、この地域木賃アパート結構たくさんあって、これは有識者の方もよく言ってるが住宅のリノベーション、生活保護でも今家賃は4万。それでも住めない人たちが増えてくるので、リノベーションしてシェアハウスにして、一人当たり2万ぐらいで住めるような住宅を整備する必要があるんだろうと我々議論するんだけど。そういうときに訓練をできる場、勿論建築日雇いの人もたくさんいるので、住宅の細かいとこまでできるかよく分からないですが、そんな訓練ってできる可能性あるんですか。Aなり関連施設なりで。

○ リノベーションですね。

○ 要は大工仕事なり、住宅のちょっとしたもの。

→ リフォームみたいな話か。

○ 内容的にちょっと、私も仕事の内容までは。

- そういう風な訓練して、住宅を労働者に供給する部隊があって、もう少し安く住める住宅がリノベーションで増えていけばどうかな。
- あんまりいい話とは思えないな。
- そうですか。
- 住宅の貧困化に繋がるような。それぐらいなら介護用具の取り付け職人養成の方がまだ早いかもしれない。
- まあ、そうかもしれないけど。そんな話だってあり得るのかも。
- あそこの場所は引っ込みすぎているので、便利な場所にサテライトでも作りたいと仰っていたけど、新今宮界限だと移動には便利です。選択肢としてはいかがでしょう。
- 引越したいとは言っていません。
- いえ、サテライトとして。
- 今の規模で、あそこ一箇所だけで大阪府内の大きなニーズには応えられないだろうとは思っているの、うちの仕組みがもう少し進んだらですよ、まだ道半ばだと思っているので、いろんなところにサテライトとか可能じゃないか、あるいは連携も可能じゃないかとは思っています。連携は今すぐでもかまわないと思っています。
- お金を出してもらわないと連携はできないよな。今のところ講座ものはペイできているのか。
- いや難しいですよ。三本事業で何とかぎりぎりの線です。経営は苦しいですよ。
- 時間が相当に押していて申し訳ない。閉めの話にさせていただくが、今日みなさんから質問やご意見いただいて、結構、未来を創造できるような話に繋がったかなと思う。今日のAワークさんの話しを踏まえて、みなさん方自身で、このまちでどんなことができるかを検討いただきたいと思います。やはり外部の方たちの意見を聞くのも役に立ったかなと思いますので、今後もこういう場を作って行きたいと思っています。女性の就労支援の場ですとか、先ほど中小企業同友会さんの話しもありましたけれども、Aワークさんは勿論、私も繋がりますので、ああいう企業さんにも来ていただいて、こういう場を作るのも面白いと思います。地域のまちづくりを仕事にしている団体もあるので、そういうとことにも話しを聞く。建築に関しては、地域外の少し違う団体に来てもらって話しを聞いてもいいのかなと思います。今後も外部からアイデアをいただきながら、この会議をより豊かなものにしていきたいと思っています。ありがとうございました。

(2) 報告

- 最後、報告事項についてあまり時間がないんですが、仮移転施設に関する状況報告を事務局からお願いします。
- 仮移転施設の状況について、コンパクトにご報告いたします。まずご心配をおかけしておりました西成労働福祉センターの仮移転施設用地の整地は、7月1日無事終了いたしました。現在は仮移転施設本体の基本設計、特にまちづくり会議でもご意見をいただいております、騒音振動対策のほか、スプリンクラーや出入口の確保などの防災設備等、労働者の安心安全確保対策を、設計段階で検討しているところです。
7月からは南海電鉄の高架下で、あいりん職安さんの方も予定通り工事を進めさせていただいておりますので、ご報告させていただきます。
- あそこの高架下の柱は風化してコンクリート落ちてきている。
- 前回もご意見いただきましたので、南海電鉄の方にも強く申し入れておりますので、また必要な箇所がございましたら教えていただきたいと思います。

→ あんたらが信頼できる調査せなあかんのちゃうの。

- 設計段階の外観のイメージということで有識者の先生にご説明いただきます。
- 前回皆様にお示ししましたガラスのカーテンウォールの形でのイメージがあるかと思うんですが、検討させていただいております。
- やはり予算の面もありますし、防音の設備の話など設備の話が出てきておりますので、費用の関係でガラス面が少し減ってきています。デザインに関してはこれから議論していくんですけど、中は吹き抜けにしております。ここがずっとカウンターになっていて、幹旋等をするということです。大きなパネルをいくつか掲示して実際の業務に当たっていただきます。この案に関しては以前みなさんにお渡しした平面図とほとんど近いものだと思います。柱がかなりありますし、マックス300人が入ることになりますので、300人が入ったときのイメージで考えるとなかなかきちきちの感じになりますから、それをどう対応していくのかも考えていただきたい重要なテーマだということをお伝えしたいと思います。

→ いつコンクリート落ちてくるか分からんよ。

- コンクリートの問題に関しては、南海さんの方に強く申し入れをしていただいております。
- はい、申し入れさせていただきました。ありがとうございます。
- 南海もそのようなことがないようにしたい、いくつか処理をしたいとお話していただいております。

→ 吹き抜けということは、高架の下に二重屋根にはしないということですか。

- 二重屋根です。

→ 上を見れば電車の床が見えるということではなくて。

- ちゃんと屋根をかけます。それも折板が多いんですけど、折板では音が漏れてくるので、コンクリートにしてなるべく音がもれないようにしようということになります。

→ だからパラパラ落ちてきても屋根はあるから、直接人間には落ちてこないということね。

- 別に屋根はあります。

→ パラパラ落ちたらあかんでしょう。

→ だから万が一落ちたらでしょう。

→ あかんでしょう。

- 駐車場の問題に関しては、今、台数も含めてこれから作られるであろう台数をどのように計画していくかの最後の詰めです。 駐車場に関しては、朝に駐車されているのは業務に支障が出るということで、一定のフェンスですか。
- はい、稼動式の蛇腹のフェンスです。
- 可動式の蛇腹のフェンスを入れたいと伺っているところです。余り閉鎖的にしたくないということでその高さもできるだけ低くして欲しいとか、可動式でということと話しています。以上です。
- 二つ目。労働関係の調査ですが、前回少し話したが、有識者を中心にあいりん地域まちづくりビジョン策定委員会を作って、この地域の労働者、町会の人たち、簡宿をはじめとする事業者の方々など、いろいろな人の現状とニーズをお聞きして、それをビジョンに反映していきたいと今準備進めているところです。労働者に関する調査については、今ここにお越しの労働関係の団体の方々にもご協力いただきたいと思っていますので、またよろしくお願ひします。

→ 何を協力するの。協力なんかできへんよ。

- じゃあ結構です。

→ 安全性ちゃんと確保せんと。

○ ご協力いただけないなら、残念ですけど結構です。

→ 安全性ちゃんと確保しなさいよ。

○ 三つ目のあいりん地域まちづくり会議第2回報告会について報告してください。

○ 7月28日に西成市民館におきまして、あいりん地域まちづくり会議第2回報告会ということで、4月14日に続いて第2回目の報告がございました。また、これにつきましては全体会議の方で詳細な報告があるかと思いますが、労働施設検討会議に関連しました質問についていくつかご報告させていただきます。

○ シェルターを5時に出された後、どこに行けば良いのかというご意見については、仮移転先にそれだけ広いスペースはないが、先ほども申し上げたとおり最大300名程度、特別清掃などで多数の方に職業紹介に必要なスペースを最大限確保させていただきたいと申し上げております。また労働施策だけでなく、福祉施策としても大阪市も巻き込んだ議論をしていく必要があるということにもお答えさせていただきました。

○ 労働者の声をもっと聞くべき、というご意見については、この会議でもお聞きしておりますけれども、ちょうどそのような場となるように前回も報告会はあったところです。なかなか難しかったですが、当日は地域のまちづくり会議において労働者の立場から委員にご参画いただいておりますが、声を聞くのにはまだまだ不十分なところがあるということで、今後、まちづくりビジョン策定に向けたアンケート調査、労働者の方々にもお伺いしていくと、お答えさせていただきました。

○ 平成29年4月から着手している工事をスケジュールに明記すべき、とのご意見については、仮移転を円滑に進めるためには、平成29年度に高架下の壁などを撤去する必要があるということで、平成29年4月から着手しています。ただスケジュールイメージ策定段階で、整地工事の着手時期までは未定であったので、記載はなかった。来年度からの工事のために、早く撤去していく必要があるとお伝えいたしました。

○ 仮移転はいつ決まったのか。他に候補地はなかったのか。とのご意見については、昨年7月26日の第5回まちづくり会議で委員多数の合意を得たこと、小学校跡地や地域内の公園などの候補はありましたが、条件を満たす中で一番広い場所を確保できたのが南海電鉄高架下であったことから決定したとお答えしました。

○ 安全第一で考えているのかとのご意見については、まちづくり会議で知事が発言したとおり、安全確保を第一に委員の皆様にもご意見をお伺いしながら最終的に府として決定したことをお答えさせていただきました。

○ 仮移転、本移転、居場所、高架下の防音など、いろいろ不安が解消されないまま、工事が進むから不安になる。不安に対する明確な回答をすべきとのご意見については、まちづくり会議でも大事なお話としてご意見いただいております。今後、当事者へのインタビューなどを通じて何が不安なのかをお伺いしながら、その結果をまちづくりビジョンにも反映したいとお答えさせていただきました。

簡単ではございますが、前回の報告会の労働施設パーツに関するご質問と回答は以上です。

→ 工事はいつ始まるんですか。労働福祉センターの仮移転先の工事。

○ 一日も早く工事をしたいのですが、今の予定では、設計や予算の関係もあります。スケジュール表には来年度の予定になっていたと思いますが、来年度の早い時期から工事を進めさせていただきたいと考えています。

○ 続いて、会議の公開について事務局から報告してください。

○ 前回会議の冒頭、会議の公開についてのご意見、傍聴についてのご要望、議事録への発

言者の記名について、再度ご意見いただきました。また会議の終わりにもご意見いただき、事務局として再度検討させていただきましたが、あいりん地域まちづくり会議の他の部会の扱いと同様、現段階では会議の傍聴、議事録の記名については難しいということになりましたので、引き続き検討させていただきたいと思っております。

- 今日の議論を踏まえて、本移転に向けて中身をどういう風に豊かにしていくのか、今日はA〱創造館からお忙しい中お越しいただき、我々のアイデアも沸いてきたかなと思います。やはり刺激のある議論をいただかないと、みなさんたちもいいアイデアが浮かんでこないのかなと思います。次回は確定ではございませんが、外部の方にもお越しいただき、こういう風に議論、意見交換する場を引き続き持っていきたいと思います。ただ当初の予定では、そこまで踏み込んだスケジュールの設定がなかったので、事務局にはスケジュール表を見直していただいて、このような学習の場を重ねていきたいと感じたところです。

→ 最後に要望したい。今日みたいに勉強するのもいいんだけど、できれば、よその人の意見もあるけれど、みんな思いがあってやっているんで、私やったらこういう面積でこういうものを作りたいんやというようなことも、やった方がもっと面白いんじゃないか。段々ジリ貧になっている気がする。

- はい、十分それも検討したいと思えます。
- ありがとうございます。最後に議事概要についてご報告いたします。第20回の議事概要案、今回かなり細かくできる限り記録させていただいたつもりです。訂正等がありましたら、恐れ入りますが8月30日までに事務局大阪府商工労働部までご一報ください。議事要旨はホームページに掲載させていただくものです。第19回の議事概要については既にホームページに掲載させていただいておりますので、機会がございましたらご覧いただきたいと思います。次回労働施設検討会議の開催日程につきましては、また改めまして、次回会議の進め方、日程を再度調整しまして、月明けできるだけ早いうちにご案内をお持ちいたしますので、申し訳ございませんが、ご了承いただきたいと思います。
- それでは本日の会議を終了したいと思います。